



今月は「イラク」を覚えてお祈りください

イラクは、中東・西アジアの連邦共和制国家である。首都はバグダッドで、サウジアラビア、クウェート、シリア、トルコ、イラン、ヨルダンと隣接する。古代メソポタミア文明を受け継ぐ土地にあり、世界で 3 番目の原油埋蔵国である。

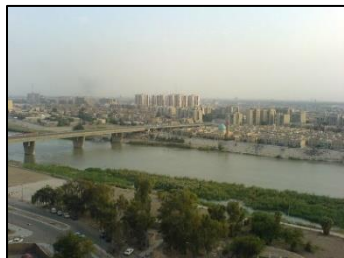
イラクの経済・政治・宗教について

イラクは昔から原油大国として経済を保ってきた。フセインの独裁政権下では原油による莫大な収益が戦争兵器製造のために用いられていた。近年では、イランとの紛争や2回の湾岸戦争によって経済成長が鈍化している。原油による経済をどのように配分していくかが政治的な課題である。長年にわたる独裁支配と戦争によって破壊されたインフラを整えていくには数十年もかかると言われている。さらに、政治的な腐敗と不安定さをどのように安定化させたらよいか。失業率も 18%—30%にもものぼっているとの統計があるため、若い世代は将来に対して大きな不安を覚えている。

フセイン氏の独裁下ではシーア派のイスラム教徒やキリスト教に対する迫害が激しかった。2003 年からイスラムの過激派たちは宗教的少数の人々に対する迫害を増しくわえている。現憲法下ではイスラムの教えに反する法案は可決できないとされており、信教の自由は実質的には存在しない。新しい教会を政府によって認めてもらうことは今の時点ではほぼ不可能だ。

イラクのその他の情報

面積:438,317 km<sup>2</sup> (日本の約 1.16 倍) 人口:31,466,698 (日本の約 25% 2010 年時点)



宗教:	
イスラム教	95.61%
その他	1.90%
キリスト教	1.59%
無宗教	0.60%

ティグリス川とバグダッド市街 デーツを実らせたナツメヤシ バグダッドに住む子どもたち

「まことに、主はこう仰せられる。『勇士のとりこは取り戻され、横暴な者に奪われた物も奪い返される。あなたの争う者とわたしは争い、あなたの子らをこのわたしが救う。』」

イザヤ 49:25  
祈禱課題

イラクの将来を覚えて

フセイン政権による独裁的な政治はなくなったものの、いまだに解決されるべき課題が山積している。

1) 安定した近代的な政府が確立されるために多数ある宗教の考え方と民族間の違いを一つの国としてまとめつつ、経済的な安定と信教の自由を約束することが求められている。無法や内紛が国を壊し続けており人々の将来を不安にさせている。神様のみこころにかなった、天来の知恵をもって国を導く指導者が必要だ。

2) 数十年間にもわたる戦争の傷からのいやし—イラクに住む人々はほぼ全員が戦争による傷を負っている。フセイン氏による残虐的な独裁やイラクの問題を解決するべく介入した国連がもたらした被害や傷はいまだに癒えていない。このようなところにこそ福音が必要とされている。イエスの福音が自由に伝えられるための門が開かれていくように祈り続けなければならない。

3) 政治と社会における腐敗—イラクは世界の中でも最も政治的腐敗のひどい国の一つとされている。これによって戦争からの復興や社会の発展が非常に遅れている。

4) 弱い者たちが特に傷ついている—繰り返される内紛や戦争によって推定 600,000 人がいのちを失っており、2 百万人もの人々が住む場所を失っている。国民の半数以上は貧困生活を強いられている。

多くのイラク人女性たちは強制結婚、誘拐、暴力や強姦によって苦しんでいる。女性たちが支援を受けられる仕組みが社会の中に確立されていない。しかも、イスラムには女性を助けて保護するという考えがない。主イエスの愛が伝えられ、この悲惨な状況に介入していく手段や仕組みが必要とされている。

子どもたちも多くの傷を負っている。度重なる紛争は子どもたちの心に大きな不安や恐れを生じさせている。子どもたちの多くは学校にいけないうままでの。半数にもものぼる子どもたちはきれいな飲み水さえ満足に飲めていない。子どもたちの中には栄養失調で苦しんでいる者も多い。数十万人という子どもたちは戦争避難者として国内や国外で暮らしているが、その生活環境はととも悪い。子どもたちが福音を通してイエスの愛によっていやされていかなければならない。